

中川村ラブソディ

岡野内 正

<やばい！飲みすぎ！！>

私にとっては生まれて初めてのハチの子。今年最後のイナゴ。…うーん、虫特有の不思議なうまみ。いくらでも出てくる手作りの漬物。キノコ天ぷら。そして、中川村唯一の造り酒屋の濾過していないというほんのり黄色の日本酒。素朴な辛口が、虫たちによく合う。…はじめはお燗で、やがて、面倒だという村長提案で、やがてヒヤで。ぐびりぐびりと盃を重ねるほどに、いろいろ村のことで聞いたかったことを忘れてしまい、桃源郷へ。まあ、ゼミ生たちがしっかりとノートをとりながら質問しているのと、安心して酔いの世界。…村長さんも、かなり飲まれたご様子。村長さんご持参の一升瓶が開いてしまう頃には、いい具合に、おすすめの予約のみの蕎麦屋のフルコースも終了へ。村に到着してから、宿泊所から風呂へと、ずっと私たちのレンタカーを先導してくれていた村長さん運転の軽トラの脇に、奥さんの車が到着。歓迎を大いに感謝し、こちらは酒を控えたA君運転のレンタカーで宿へ。

というわけで、私はいきなり美酒で昇天だったが、村長さんから見れば、不思議な一行だったかも。

<村長の部屋>

中川村に行く前に、参加のゼミ学生たちと二回の事前勉強会。私も、気になっていながら、ずっとフォローできてなかった、中川村のホームページと、そこからつながる村長のサイトをざっと読了。…自分なりのことばで人間の平等と議論の大切さを説いたものとする仏教哲学の独自の解釈を基礎に、日の丸、原発、TPP、戦争責任、…と、日本社会の底辺にくすぶる微妙な問題に対して自由に発言し、反対者の意見も公表しながら、オープンに議論していく姿勢が気持ちいい。こういう人が、日本の村の村長になっているということ。そのことだけでも、ずいぶん貴重な、ありがたいこと。こういう議論が無数にあって、人々が考え込み、ああだこうだと言ってみる。それだけで、社会全体が底のほうから変わってくるに違いない。

<ベーシック・インカム>

そして、ベーシック・インカム。おそらく日本の村長で唯一、ベーシック・インカムを公然と支持している人。村長のサイトで改めて見れば、じわじわと押し寄せる過疎・高齢化の波の中で、ベーシック・インカムの可能性をかぎ出す臭覚はびかー。…それが、盛り上がったのは2, 3年前のことで、ここしばらくは、村長のサイトでも停滞しているのは、おそらく、日本でのベーシック・インカム研究の停滞を反映しているのではないか。そう考えながら、ベーシック・インカム研究者の端くれとして、責任を痛感。…それにしても、

村長さんのベーシック・インカム論の優れているところは、ベーシック・インカム保証、つまり、雇用されなくても基本的な生活が現金収入で保障されるような制度のもとで、自由に動ける人間が登場することが、現代社会でコミュニティを再生するためのカギだということ、しっかりつかんでいること。…多くの研究者たちは、この点があやふやで、中には、ベーシック・インカムが社会的排除を作り出すなどと、いかにもすさんだ人間像に基づく理屈をこねてベーシック・インカム反対に回る人も。

<中川村ラブソディ>

おそらく村長さんを支えるのは、なんだか不思議におもしろい中川村の人間たちがかもしれない。取り澄ました世間から見れば、ちょっぴり狂ったラブソディかもしれないが、白きたおやかな峰に囲まれたこの村の人間像のおもしろさ。こういう人たちと触れていると、ほんのちょっぴりの現金収入の必要が、大都市と大企業にしがみついた世間を狂わせているありさまが見えてくる。…我々は、幸運だったようだ。昇天した翌日は、まずは、世界一という巨大なスズメバチの巣を作らせた村のハチ研究家の不思議な映像が入った宿併設の博物館で、村人の不思議なエネルギーを確認。…もともと酔狂なアーティストの私設美術館だったものを村が買い取った、夢のような景色の美術館。たったひとりでそのお守りをする不思議な女性。…電力会社をやめて移り住んだという、目の前の畑で採れた野菜を出す、若者のやるカレーのカフェ。そこに現れたやはり移住してきた若い額縁屋さん。…その近くの自然農法の若者一家。

<山梨県上伊那郡、人口 5 千人>

蕎麦屋で、「村長さんの村での基盤って、何なんでしょう？」と聞けば、「村に昔からいる社会党と共産党、それにとにかく、いままでの村長さんじゃない人を、という人たちみんなかな。」という答えだったような。…美術館の女性は、よそから移り住んだ人たちを中心に、村長さんを支える会のようなものがあるの、とも。「よそ者の今の村長を選んだというだけでも、この村は、おもしろい。いや、おもしろく、変わりつつあるの。」とも。

インターネットで見れば、人口ほぼ 5 千人で、それがゆるやかに確実に、減少しつつある。そんな村に、若者が入ってきているのだ。…宿のフロントで、フロントの男性から、「村長さんからお伺いしたんですが、ベーシック・インカムの専門家でいらっしゃるとか。」と声をかけられ、興味を持って勉強をしているという彼に論文を送ることに。二日目にあつた人たちも全員、ベーシック・インカムを知っているだけでなく、賛成のご様子。

<村から世界へ、世界から村へ>

ベーシック・インカム保証社会は、ここまでグローバル化した経済に支えられた現代では、村だけでは、経済的に支えるのがたいへん難しいことはだれでもわかる。日本だけでも、困難だろう。だからこそ、全世界で、グローバル企業を財源にしているのしぼり、うま

く国際機関で課税していくのが、むしろ近道だろう。というのが、今のところの私の見解だ。それには、グローバル経済の不況で苦しむ世界じゅうの村の声が、世界を揺さぶり、揺さぶられて跳び上がった70億の人々が力を合わせる必要がある。…宿においてあった「世界の美しい村連合」は、ヨーロッパだけのものであったが、それでも、中川村からそんな世界の村へのつながりがあることは驚き。…一昨年夏にブラジルのベーシック・インカム社会実験村を訪れたとき、実験をやるNGOの人たちから中川村のことを聞かれた。そう、彼らは来日したときに、村を訪れ、村でベーシック・インカムのセミナーを。…今年9月、アラスカの先住民への調査に行ってから、急に私も、中川村が気になってきたのだ。ベーシック・インカムを求める世界の村連合、なんてものがないかしら。グローバル金融機関の手元で「だぶつく資金」を、世界の村に回すだけで、ひとりひとりにわずかの現金収入を保証できる。そのわずかの現金収入があれば切り開かれる、おもしろい村人たちのかなでるラプソディと群舞。世界の村人には、それが見えているのだ。(2013年11月17日)